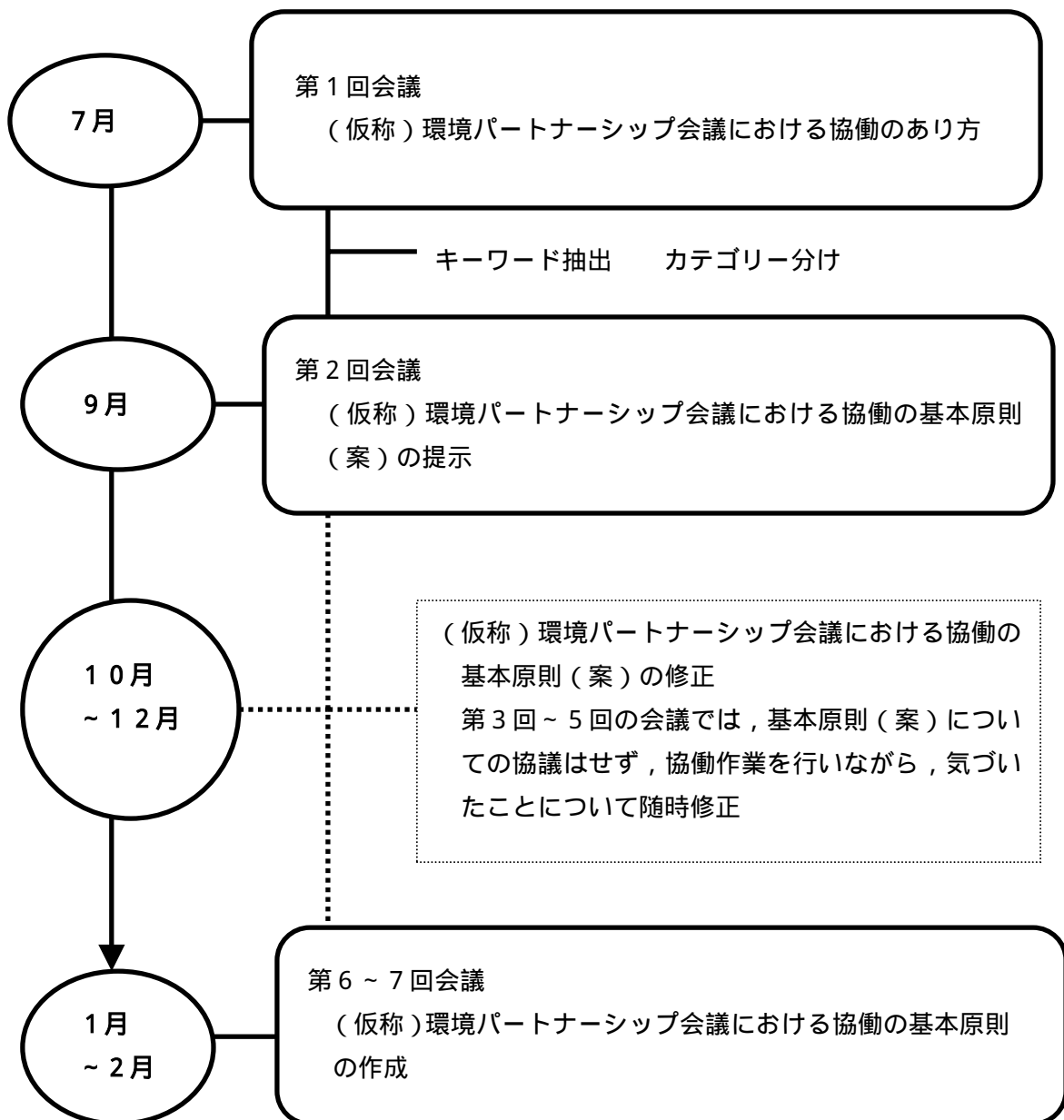


## 協働の基本原則（案）について

### 協働の基本原則作成の趣旨

宇都宮市環境基本計画を推進していくために、市、事業者、市民がそれぞれの役割と責任を果たしながら、各主体がその機能・得意分野の違いを生かして協働で、相乗効果が得られる具体的な環境保全活動や事業などを実践するための協働のあり方について、協働の基本原則として取りまとめるもの

### 策定フロー



市民・事業者と行政のそれぞれが、環境保全活動の主体となり、「**対等**な関係」で、協力しながら取り組んでいくことが重要である。

\* 環境パートナーシップ会議での活動内容を企画・立案（plan）する段階での対等関係

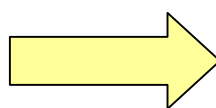
\* 活動を実施（do）する際の対等関係

\* 活動内容に対する評価（check，action）を行う際の対等関係【大谷津】

### 対等・平等・公平【大野】



キーワード  
対等，平等，公平



基本原則 1

対等，平等，公平

協働に必要なものは第一にお互いの**尊敬**，第二に**信頼**，第三に**協力**，第四に**友情（愛）**である。【森本】

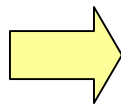
それぞれの主体は異なる「文化」を持っている。したがって、**互いに理解しあう**という努力が必要。【陣内】

市民，事業者，行政それぞれの立場は違っても，その立場である前に「地球で暮らす一員」ということで，**同じ気持ちになって取り組んでいく**ことが重要である。【山形】

### 信頼関係の醸成【大野】



キーワード  
尊敬，信頼，協力，  
友情（愛），互いに理  
解しあう，同じ気持  
ちになって取り組ん  
でいく



基本原則 2

尊敬，信頼，協力，友情

市民との協働のためには、環境保全に関心のある市民に活動の場を提供すること、そして関心の無い市民に関心を持ってもらうための動機づけが必要である。

そのためには**効果的なPR**と「参加してみたいくなる」魅力ある活動内容が欠かせない。

【荒木】

目指すべき方向を合わせる。

お互いに良く知り合い、**情報を共有化**する。【三宅】

建設的な議論のためにも、**情報の共有化**が重要。【陣内】

それぞれの立場で意見を出し合い、他県の実例なども参考にし、現場とかけ離れない位置で協議されていくことを希望する。【御子貝】

行政や事業者は、その活動内容を積極的に公表するなど**情報提供**を充実し、透明性の高い施策・事業の実施に努めるとともに、その成果を客観的な数値として**公開**する。

また、一方的な情報提供ばかりでなく、コミュニケーションを通じて、お互いを理解していくため、意見交換や情報交換を積極的に行なっていく。

\* 活動を行うために必要となる**情報の共有**

\* 現在進行している活動に関する**情報の共有**

\* これからやろうとしている活動に関する**情報の共有**【大谷津】

パートナーシップ会議の環を宇都宮市全体に広げていくことが大切である。

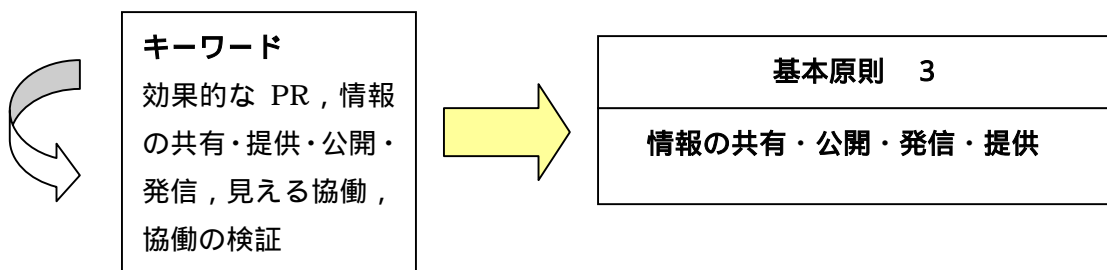
そのためには、この会議を市民の目に触れる形で展開する必要がある。

「**見える協働**」と「**協働の検証**」を示していくべきである。【青木】

お互いがメンバーの一人一人のそれまでの業績に敬意を表するとともに、個々の持っている魅力や情報を引き出すことも、有効な施策を生み出す上で必要な要件である。

大事なことは、何事も出来ないことはない。他でやったことがないからと諦めるのではなく、何故出来ないかを探ってみる勇気と英断が必要である。そのためにも**情報の共有化**が不可欠である。【森本】

**情報の共有・公開・発信・提供**【大野】



それぞれの主体の得意とするところをのばし、**不得手なところを補い合う**という関係性が重要(=**適正な役割分担と責務**)【陣内】

それぞれが特徴を活かし、**参画**できる場面で参加する。【三宅】

市民も行政も事業者もそれぞれの立場でやるべき事はきちんとすること。【神宮】

環境パートナーシップ会議においては、行政が立案し、市民・事業者が参加、協力するという、これまでの有りがちなパターンではない、新しい「**役割分担**」によって活動が行われるべきである。具体的には、事業の立案、実施、評価、改善というすべての過程において市民・事業者が「**参画**」することが「協働」であり、環境パートナーシップ会議のあるべき姿であると考えている。【高橋】

会議は「環境基本計画を実現するため、市・事業者・市民が連携・協力しながら、具体的な環境保全活動として取り組んで行く母体組織」であり、協働を象徴する「合意し・行動を連携する組織」と考える。行動するメンバーを得るには、具体的に何をやる会議なのか、**役割を明確に伝える**必要がある。

たとえば次の3つの役割(案)が考えられる。

ア) 環境行動を啓蒙普及する役割(市施策・イベントへの参加)

環境教育の出前・環境フェアの開催・市版ISOの認定等の啓蒙普及への参加を合意し、実行ワーキングを形成、協力等できる役割を分担連携する。

イ) 環境を改善する協働事業を推進する役割(プロジェクト事業の推進)

ゴミコンポスト化と有機農業利用・モデル地域の生き物再生等環境保全事業を企画し、参画者が役割分担するプロジェクト事業化を展開する。

ウ) 環境情報を交流する役割(行動ノウハウの交流)

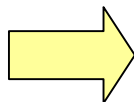
環境情報や改善技術を持つメンバーが、テーマ別の発表・ワークショップを開催(会議は共催)し、関係者・市民とのノウハウ交流を拡大する。

【仁平】



**キーワード**

不得手なところを補い合う、適正な役割分担と責務、参画、役割分担を明確に伝える



**基本原則 4**

**適正な役割分担と責務遂行**

環境を考えると、**真実を探求する事**に通じる。何が正しく何が価値があるのか、そう問い掛けることから始めねばならない。そしてそれを原点として、**今自分で考えられることから始めよう**とすることである。【藤原】

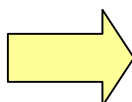
協働していく上で、**それぞれの立場を最大限に活用**して、市民のたくさんの人に、興味をもってもらえるような取り組みを広めて行ければと考えている。【山形】

**自主性・創造性の発揮と尊重**【大野】



**キーワード**

真実を探求する事、  
今自分で考えられる  
ことから始めようと  
すること、それぞれ  
の立場を最大限に活  
用、自主性・創造性  
の発揮と尊重



**基本原則 5**

**自主性・創造性の発揮と尊重**

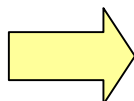
会議運営の費用負担も協働のテーマである。

- ・ **構成員・ボランティア参加は原則無償**（実費支弁）
- ・ **啓蒙普及(市施策・イベントへの参加)及びノウハウ交流は主催者負担**《環境情報や改善技術を持つメンバーが、テーマ別の発表・ワークショップを開催（会議は共催）し、関係者・市民とのノウハウ交流を拡大する。（期間限定助成）》
- ・ プロジェクト化（ゴミコンポスト化と有機農業利用・モデル地域の生き物再生等環境保全事業を企画し、参画者が役割分担するプロジェクト事業化に展開する。）は事業費用を得る協働の仕組みが必要である。【仁平】



**キーワード**

構成員・ボランティ  
ア参加は原則無償、  
啓蒙普及・ノウハウ  
交流は主催者負担



**基本原則 6**

**費用負担の明確化**

## 協働の基本原則（案）～イメージ～

### 基本原則 1 対等，平等，公平

市民・事業者と行政のそれぞれが，環境保全活動の主体となり，「対等な関係」で，協力しながら取り組む。

### 基本原則 2 尊敬，信頼，協力，友情

市民，事業者，行政それぞれの立場は違っても，その立場である前に「地球で暮らす一員」として，お互いの尊敬，信頼，協力，友情（愛）の基に，同じ気持ちになって取り組む。

### 基本原則 3 情報の共有・公開・発信・提供

お互いに良く知り合い，建設的な議論のためにも，情報の共有化が重要である。

また，各主体は，その活動内容を積極的に公表するなど情報提供を充実し，透明性の高い施策・事業の実施に努めるとともに，その成果を客観的な数値として公開し，この会議を市民の目に触れる形で示していく。

### 基本原則 4 適正な役割分担と責務遂行

事業の立案，実施，評価，改善というすべての過程において市民・事業者が参画し，明確な役割分担の基に，活動を行うことを基本とする。

### 基本原則 5 自主性・創造性の発揮と尊重

自主性・創造性の発揮と尊重を基本として，それぞれの立場を最大限に活用して協働で活動を行うことを基本とする。

### 基本原則 6 費用負担の明確化

啓蒙普及活動やプロジェクト事業など事業の性質に応じた費用負担の明確化を図る。